

## 第2学期始業式式辞（令和6年8月29日）

皆さん、おはようございます。台風の影響が気になる2学期の始まりになりましたが、既に準備が始まっている運動会をはじめ、2学期も充実したものになるよう、頑張っていきましょう。

先ほど、表彰をした皆さん、すばらしい成績でした。おめでとう。ボート部、将棋、放送のほか、インタハイには陸上競技、水泳、全国高文祭には、美術、書道、囲碁、弁論の皆さんが出場し、頑張ってくれました。それから、吹奏楽部は県大会金賞、先日の四国大会でも金賞、コーラス部は二つの大会で県予選を勝ち抜き、この後の四国大会への出場を決めています。先週は俳句甲子園の全国大会もありました。また、多くの部活動で合宿や遠征、新チームでの大会も行われています。海外語学研修に参加した生徒も、充実した研修を終えて、元気に帰ってきました。3年生は補習のない日も、学校で熱心に勉強に取り組んでいました。皆さんの活動の全てを言い尽くしてはいませんが、全校生徒の皆さんの頑張りに、心からエールを贈りたいと思います。

私はこの夏、松山市で行われた田丸雅智さんの講座に参加しました。田丸さんは本校の卒業生でショートショート作家の第一人者です。私は、皆さんによく田丸さんの話をしますので、知っている人も多いと思います。その田丸さんの講座で心に残った言葉を皆さんに紹介したいと思います。

それは、「情熱と実行」、そして、「それは幸運を呼ぶ、かもしれない」と続きます。自分の目標に向かって進むとき、絶対に成功させたいという情熱の強さ、そして、そのための実行力、その二つがそろって初めて成功がある。田丸さんが、東高の理系から東大に、そして小説家になりたいと強く願ったときのこと、自分に足りないものは何か、そして、どうすれば克服できるか、それをひたすら実行する、そして、結果はどうであるか、その結果、足りないものは何かと繰り返して考える。小説家を目指すに当たっては、自分に足りないものを補うために、ひたすら、旅行、美術鑑賞、読書、漢字検定、料理や研究を重ね、それを繰り返したそうです。

情熱はあるが実行が伴わない、こつこつと実行はするが強い思いがない、どちらか一方だけでは、最後に幸運は訪れないのかもしれない。

この夏のオリンピックでも、男子体操団体や、堀米選手のスケートボード、高校生の玉井選手の飛び込み。皆、最後まで諦めなかったことで、大きな逆転劇がありました。逆転したのは、幸運もあったかもしれませんが、やはり選手の皆さんの情熱と実行の賜物だったのだらうと思います。

高校生の皆さんも、こうありたい、こうしたいという強い情熱を持ち、ひたすら実行する。高校生の時期には、その経験を積みば積むほど、物事は驚くほど上達します。今年、高文祭の弁論に参加した本校の松本くんは、練習を重ねるにつれて上達し、本番が一番よかった。私もその最後の弁論を見ることができました。水泳の小野くんもインタハイで自己ベストを出したと聞いています。先日の俳句甲子園でも、試合中にだんだん鑑賞力やディベート力が上がっていったのを見ることができました。私は、かねがね東高の生徒は本番に強いと思っていましたが、それは、それまでの練習があったからこそ、実力を発揮できる幸運を得たのだと思うのです。3年生も、勉強を重ね、模試を粘り強く受ける中で、見違えるほど力がついていく、小論文も英作文も書けば書けば上手になります。

くしくも、今年の夏の甲子園大会では、こんな選手宣誓がありました。「努力したとしても報われるとは限らない。しかし、努力しなければ報われることはない。この言葉に励まされ、僕はここに立つことができました。そしてこれからもこの言葉を胸に、最後まで戦い抜いていきます。」

2学期は、運動会や文化祭、そして、部活動も勉強も本格的になっていきます。情熱と実行、皆さんの健闘を祈って、始業式の式辞とします。